

なかま

プリンストン日本語学校新聞



平成25年度 No.19号

平成25年 9月29日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

朝冷えて アントシアニン 増殖す
庭園は 一夜で菊に 早変わり

今日の予定

前期最終日 幼稚部親子ピクニック

今後の行事予定

- 10月 6日 後期開始 秋祭り
- 10月 13日 参観日小5小6（1校時参観2校時懇談）中P中高（3校時参観4校時懇談）
- 10月 20日 参観日小1小2（1校時参観2校時懇談）小3小4P小（3校時参観4校時懇談）
- 10月 27日 漢字検定 12:20～

漢字検定試験に挑戦しましょう!!

小学1年生にとっての漢字学習はけっこう楽しいかもしれません。山川水雨田月目口（象形）はどれも自然の形がもとになっているし、一二上中下本（指事）は、分かりやすく覚えることができます。それでは4年生ではどうでしょうか。その多くは飛建望験選最標機など画数が多いのに、覚えるための簡単な方法が見いだせないものが多いので、漢字を学ぶことをだれもが楽しいとは思えなくなります。これは、日本での話です。日常に日本語環境が乏しい外国で、日本にいる生徒と同じように日本語を身につけようと思えば、そうやすやすとできるとは思われません。本や新聞を読んだり仕事に必要な日本語を得ようと思えば、相当な覚悟がいると思われれます。その大変さを思えば、もう漢字はあきらめようか、そして日本語を学ぶことも止めようかと思っても不思議ではないのに、こつこつがんばり続けている人もいるのには感動します。その人たちに共通しているのは、親との二人三脚があり、親が子どもを支え続けているということ。親子で取り組む厳しい戦いなしに勝利はありません。特に低学年のうちに達成感と自信を持つことができるための手段の一つが、漢検の受検だと思えます。

図書室には最新の問題集も用意していますが、検定協会発行の問題集の購入をお薦めします。次回検定は2月2日です。

シラミに注意!

最近、現地校でシラミをもらってきたという報告がありました。教室等での友だちとの髪の毛の接触等で簡単に広がるので、注意をしましょう。

「文科省の政策変化の動きを受けて」

カルダー淑子（理事長）

今週は「プリンストン日本語学校が注目されている！」(9/15)の続編をお伝えしたいと思います。

少しカタイ話になりますが、この夏の外務省のオンライン広報に「最近の海外における日本語の普及促進に関する有識者懇談会」の様子が掲載されています。その中で文科省国際教育課長の提言として次のようなことが書かれています—「継承日本語教育推進のための体制整備をオールジャパンで進めていく必要がある。その際、海外における日本語教育において、帰国予定児童生徒への国語教育、永住児童生徒への継承語教育、外国語としての日本語教育を一連のものとしてとらえつつ、在外教育施設、特に補習校を外国における日本語教育の総合機関と位置づけ、そのための体制整備を進めていくことが必要ではないかと考える」

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/page5_000197.html

母語社会を離れた海外にあって、その母語を受け継ぎ、次の世代に伝えていく教育を継承語教育といいますが、それを補習校でも推進し、同時に従来の国語教育、外国語としての日本語をも取り込んで、それぞれの教育をつないでいくという発想がここにあります。私たちのプリンストン日本語学校は、この10年来、一つの屋根の下に、補習校部、プリンストンコース、JASL という三本のコースを並立させ、文科省がこれから目標とする補習校のあるべき姿を、率先して実践してきました。こうした点が注目され、今年1月には文科省から国際教育課長が視察にられました。

このような三本のコースを開設し維持するためには、カリキュラムの作成の面でも運営・資金面でもチャレンジが常にあるものですが、幸い本校では先生方がたゆみない創意工夫を続けて下さり、保護者の皆様の支援活動も総務オフィスや父母会を中心に活発です。JASLが開講されたのは学校の創立と同じ1980年、プリンストンコースが開設されたのははるかに年代の下がった2004年ですが、この開設を巡っては校内で賛否の意見が交わされ、長い討議を経て現在の教育二部門制度が生まれたもので、希望と不安が交錯する中で新組織の一步を踏み出した当時のことは今も忘れることが出来ません。他の補習校には例のない教育二部門・三コース制が校内の皆様から自然に受け入れられている現在、これからも校内各部門の皆様と心をつなげて、新しい学校のモデル作りを続けていきたいと願っています。